



トラブルシューティング

概要

- 「トラブルシューティングの概要」(P.8-1)
- 「ユーザログによるトラブルシューティング」(P.8-12)

トラブルシューティングの概要

ここでは、この章で使用するトラブルシューティング方法、および SCE 2000 プラットフォームをサブシステムに分割して、問題解決する方法について説明します。問題がすぐに解決されない場合は、購入した代理店に解決方法をお問い合わせください。代理店には次の情報を提供してください。

- ルータの納品日
- シャーシのシリアル番号
- ソフトウェアのタイプおよびリリース番号
- 問題の概要
- 問題を特定し、解決するために行った手順の簡単な説明
- メンテナンス契約または保証内容

表 8-1 に、この章で説明する一般的なトラブルシューティングの流れを示します。必要に応じてこの表を参照し、手順に従って問題を特定のサブシステムに限定してから、可能であれば問題を解決してください。

表 8-1 起動時の問題に関するトラブルシューティングの手順

	アクション	該当する場合	該当しない場合
ステップ 1	電源をオンにします。ステップ 2 に進みます。		
ステップ 2	POWER A/POWER B LED が点灯している。	ステップ 3 に進みます。	「電源サブシステムのトラブルシューティング」(P.8-7) を参照して、ステップ 3 に進みます。
ステップ 3	STATUS LED がレッドに点灯している (障害状態)。	「ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング」(P.8-8) を参照して、ステップ 4 に進みます。	ステップ 4 に進みます。
ステップ 4	管理インターフェイスが動作可能である。	ステップ 5 に進みます。	「管理サブシステムのトラブルシューティング」(P.8-9) を参照して、ステップ 5 に進みます。
ステップ 5	リンク インターフェイスが動作可能である。	ステップ 6 に進みます。	「リンク インターフェイスサブシステムのトラブルシューティング」(P.8-11) を参照して、ステップ 6 に進みます。
ステップ 6	システムが正常に起動する (すべてのインターフェイスが正常に動作する)。	-	-

- 「トラブルシューティング ツールについて」(P.8-2)
- 「サブシステム別の問題解決」(P.8-6)

トラブルシューティング ツールについて

SCE 2000 のインストールのトラブルシューティングを行うには、3 つのツールが役立ちます。

- 「トラブルシューティング用の CLI コマンド」(P.8-3)
- 「LED の確認」(P.8-4)

トラブルシューティング用の CLI コマンド

SCE 2000 プラットフォームのインストレーションのトラブルシューティングに役立つ情報を表示するには、次のコマンドを使用します。詳細については、『[Cisco SCE 2000 and SCE 1000 Software Configuration Guide](#)』または『[Cisco SCE 2000 and SCE 1000 CLI Command Reference](#)』を参照してください。



(注)

管理インターフェイスが動作不能な場合は、SCE 2000 プラットフォームをローカル コンソールに接続して、トラブルシューティング用の CLI コマンドを入力できるようにします。

- **ファームウェア パッケージのインストレーションに関するトラブルシューティング**

- **boot system <filename>** : インストールするパッケージ ファイルを指定し、確認します。エラー メッセージまたはその他の出力により、パッケージ ファイルの問題を特定できます。

次に、**boot system** コマンドの出力例を示します。

```
SCE 2000 (config) #boot system ftp://user1:1234@10.10.10.10/downloads/SENum.pkg.pkg
Verifying package file SENum.pkg.pkg...
Package file verified OK.
```

- **管理サブシステムのトラブルシューティング**

- **show interface Mng** : 管理インターフェイスの IP アドレスおよび自動ネゴシエーション情報を表示します。

次に、**show interface Mng** コマンドの出力例を示します。

```
ip address: 10.1.6.145
subnet mask: 255.255.0.0
Configured speed: auto, configured duplex: auto
AutoNegotiation is On, link is Up, actual speed: 100, actual duplex: half
```

- **show ip default-gateway** : 設定されたデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを表示します。

次に、**show ip default-gateway** コマンドの出力例を示します。

```
Default gateway: 10.1.1.1
```

- **show ip route** : ルーティング テーブル全体、および最終的な宛先 (デフォルト ゲートウェイ) を表示します。

次に、**show ip route** コマンドの出力例を示します。

```
gateway of last resort is 10.1.1.1
```

- **show access-lists** : すべてのアクセス リストまたは特定のアクセス リストを示します。

次に、**show access-lists** コマンドの出力例を示します。

```
Standard IP access list 1
Permit 10.1.1.0, wildcard bits 0.0.0.255
deny any
```

- **show telnet** : Telnet サーバ デーモンのステータス (**status**) またはアクティブなすべての Telnet セッション (**sessions**) を表示します。

次に、`show telnet` コマンドの出力例を示します。

```
show telnet sessions
There is 1 active telnet session:
Index | Source
=====
0     | 10.1.1.201
show telnet status
Telnet daemon is enabled.
```

- **show line vty timeout** : Telnet セッションに設定されたタイムアウトを表示します。

次に、`show line vty timeout` コマンドの出力例を示します。

```
Timeout is 30 minutes
```

- **リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング**

- **show interface GigabitEthernet 0/#** : 特定の GBE インターフェイスの情報を表示します。

次に、`show interface` コマンドの出力例を示します。

```
ip address: 10.1.6.145
subnet mask: 255.255.0.0
Configured duplex: auto
AutoNegotiation is On, link is Up, actual duplex: half
```

- **show interface GigabitEthernet 0/# counters** : GBE インターフェイスのカウント値を表示します。

次に、`show interface counters` コマンドの出力例を示します。

```
In total octets: 191520
In good unicast packets: 560
In good multicast packets: 0
In good broadcast packets: 0
In packets discarded: 0
In packets with CRC/Alignment error: 0
In undersized packets: 0
In oversized packets: 0
Out total octets: 0
Out unicast packets: 0
Out non unicast packets: 0
Out packets discarded: 0
```

ユーザ ログ関連のコマンドの説明については、「[ユーザ ログによるトラブルシューティング](#)」(P.8-12)を参照してください。

LED の確認

前面パネルの LED は、プラットフォームの問題を最も短時間に検出できるメカニズムです。SCE 2000 プラットフォーム LED の詳細については、次を参照してください。

- 「[前面パネル](#)」(P.2-1)
- 「[電源について](#)」(P.4-14)
- 「[SCE 2000 の動作ステータス](#)」(P.8-4)

SCE 2000 の動作ステータス

表 8-2 に、SCE 2000 の動作ステータスを示します。SCE 2000 前面パネルのステータス LED は、SCE 2000 の現在の動作ステータスを表します。動作ステータスを表示するには、CLI コマンド `show system operation-status` を使用します。

表 8-2 SCE 2000 の動作ステータス

SCE 2000 の動作ステータス	説明	STATUS LED の状態
起動中	リセット後の初期状態	オレンジ
動作可能	次のプロセスが完了したあとに、SCE 2000 は動作可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> 起動が完了 電源投入時セルフテスト（障害なし）が完了 プラットフォーム設定の適用 	グリーンに点滅
警告	SCE 2000 は完全に動作可能（上記のとおり）ですが、次のいずれかが発生しています。 <ul style="list-style-type: none"> リンクに対する回線ポート（GBE ポート）がダウンしている 管理ポート リンクがダウンしている 温度がしきい値を超過している 電圧が必要な範囲内でない ファンに問題がある 電源装置に問題がある ディスク スペースが不足している (注) 警告に関する注意：SCE 2000 が警告状態になった原因を解決すると（リンクが起動するなど）、SCE 2000 は動作可能状態に戻ります（オレンジに点滅）。	オレンジに点滅
障害	次の条件のいずれかが発生した場合、システムは起動後に障害状態になります。 <ul style="list-style-type: none"> 電源投入時テストに失敗 20 分以内に異常リブートが 3 回発生 障害のためにリブートが発生した場合に障害モードになるようにプラットフォームが設定されている（CLI コマンドで設定可能） (注) 障害原因に応じて、管理インターフェイスおよびプラットフォーム設定はアクティブ/使用可能になる場合とならない場合があります（レッド）。	レッド

表 8-3 に電源装置の LED とそれらの機能を示します。

表 8-3 電源装置の LED

LED のラベル	色	状態	機能
IN		点灯	入力電圧が必要な範囲内です。
		消灯	入力電圧が必要な範囲外です。
OK	グリーン	点灯	出力電圧が必要な範囲内です (11.9 ~ 12.1 VDC)。
		消灯	出力電圧が必要な範囲外です (12.1 VDC 超または 11.9 VDC 未満)。
POWER A/B (前面パネル)	グリーン	点灯	対応する電源装置が搭載されていて、正常に機能しています。
		レッド	対応する電源装置が搭載されているが、誤動作しています。
		消灯	対応する電源装置が搭載されていないか、または障害があります。

サブシステム別の問題解決

- 「起動時の問題の特定」(P.8-6)
- 「電源サブシステムのトラブルシューティング」(P.8-7)
- 「ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング」(P.8-8)
- 「管理サブシステムのトラブルシューティング」(P.8-9)
- 「リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング」(P.8-11)

起動時の問題の特定

起動時の問題は、一般に電源の問題またはケーブルの接続不良が原因で発生します。

SCE 2000 プラットフォームを初めて起動する場合は、「SCE 2000 プラットフォームの基本操作」(P.7-1) に記載された起動シーケンスを確認する必要があります。ここでは、標準の起動シーケンスの詳細、および予測どおりに起動シーケンスが実行されない場合の対処方法について説明します。起動シーケンスにおけるシステムの状態はすべて LED によって表示されます。LED の状態を確認することによって、起動シーケンスでシステム障害が発生した場所と時刻を判別できます。次の説明に従って、問題のあるサブシステムを特定し、該当するセクションを参照して問題を解決してください。

電源装置のスイッチをオンにしてシステムを起動すると、次のような状態になります。

- すぐにファンの動作音が聞こえます。
- システムが正常に起動すると、すべての LED が点灯し、コンソール画面に初期システム バナーが表示されます。表示されない場合は、「[ローカル コンソールのセットアップ方法](#)」(P.5-1) を参照して、端末が正しく設定されていて、コンソール ポートに正しく接続されているかどうかを確認してください。
- バナーが表示されるにもかかわらず、STATUS LED がオレンジに点滅し、警告状態を示している場合は、ユーザ ログを調べます。

プロンプトで、**more user log** を入力します。

次の警告メッセージのいずれかが表示された場合は、SCE 2000 プラットフォームの電源をオフにして、テクニカル サポートに問い合わせてください。

- 「voltage problem:」
- 「fans problem」
- 「abnormal raise in interior temperature:」
- 次の警告メッセージが表示された場合は、ディスクから不要なファイルを削除してください。
 - 「insufficient disk space:」

電源サブシステムのトラブルシューティング

表 8-4 を確認し、電源サブシステムの問題を特定してください。冗長電源装置を搭載した標準構成の SCE 2000 プラットフォームの場合、デバイスがまったく起動しないことはめったにありません。ただし、起動時に、両方の電源装置が動作可能であることを確認する必要があります。SCE 2000 プラットフォームに電源を投入したときに、前面パネルのいずれかの POWER LED が消灯したままである場合は、次の手順を実行する必要があります。



(注)

環境シャットダウンによってシステムの電源が切断された場合は、最低でも 1 分が経過してから、システムを手動でリブートしてください。そうしないと、システムに致命的な障害が発生します。

表 8-4 電源サブシステムのトラブルシューティング

現象	考えられる原因	推奨ソリューション
前面パネルの POWER LED および電源装置の LED が消灯しているか、または継続的に点灯しない	システムへの電源コードの取り付けが不完全です。	電源スイッチをオフの位置にして、電源コードをシステムに取り付け直します。
	電源への電源コードの取り付けが不完全です。	電源スイッチをオフの位置にして、電源コードを電源に取り付け直します。
	電源が故障しています。	電源スイッチをオフの位置にし、別の電源を使用できる場合はその電源に電源コードを接続して、スイッチを再びオンにします。

表 8-4 電源サブシステムのトラブルシューティング (続き)

現象	考えられる原因	推奨ソリューション
	電源コードに障害があります。	電源スイッチをオフの位置にして、電源コードを取り外し、交換します。
	電源装置が故障しています。	電源モジュールに新しい電源コードを取り付け、別の電源に接続してもシステムが起動しない場合は、電源装置に問題があると考えられます。代理店に連絡してください。

ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング

表 8-5 を確認し、ファームウェア パッケージのインストールに関する問題を特定してください。ファームウェア パッケージのインストールに関連する問題の原因には、次のいずれかが考えられます。

- 予測された場所にファイルが存在しない。
- ファイル タイプが正しくない。
- ファイルの展開先となるデバイスの容量に空きがない。

表 8-5 ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング

診断アクション		
次の CLI コマンドを入力します。		
<ul style="list-style-type: none"> • <code>configure</code> • <code>boot system <filename></code> 		
現象	考えられる原因	推奨ソリューション
次のエラーが返される <code>Error-File <filename> does not exist</code>	指定の場所にパッケージ ファイルが存在しません。	パッケージ ファイルの場所を確認して、再実行してください。
コマンド出力に、パッケージ ファイル タイプが system-image でなく、 management-image と示されている	パッケージ ファイル タイプが一致していません。	オープンしようとしているファイルが正しいパッケージ ファイルであるか確認してください。
コマンド出力に、パッケージ ファイル プラットフォームが SCE 2000 に対応した正しいインストール ファイルでないことが示されている	パッケージ ファイル プラットフォームが一致していません。	パッケージ ファイルがご使用のプラットフォーム タイプに適していることを確認します。
次のエラーが返される <code>Package file <filename> does not contain magic header</code>	ファイルがソフトウェア インストール パッケージ ファイルではありません。	オープンしようとしているファイルが正しいパッケージ ファイルであるか確認してください。
次のエラーが返される <code>Error-There are only X free bytes on device <device name>, but Y bytes are needed for the extraction (where X and Y are stated in bytes)</code>	/tffs0/ デバイスが一杯です。	古い不要なファイルを削除してから、パッケージを展開し直してください。

管理サブシステムのトラブルシューティング

表 8-6 を確認し、管理サブシステムの問題を特定してください。

管理サブシステムの問題の原因には、次のいずれかが考えられます。

- 管理リンクがダウンしている (MNG LINK LED が消灯していて、ステータスが警告状態)。
- 管理リンクが起動しているが (MNG LINK LED が点灯)、ping に応答しない。
- リンクの問題により、Telnet 接続を確立できない (MNG LINK LED が消灯)。
- 管理リンクは起動しているが (MNG LINK LED が点灯)、Telnet 接続が確立できない。
- Telnet 接続は確立されたが、自動的に終了する。



(注) 管理リンクがダウンしているか、Telnet 接続を確立できない場合は、CON ポートに接続されたローカル端末上で CLI セッションをオープンする必要があります。これにより、問題を解決し、管理ポートから接続し直すことができるようになります。

表 8-6 管理サブシステムのトラブルシューティング

現象	診断アクション	考えられる原因	推奨ソリューション
管理リンクがダウンしている <ul style="list-style-type: none"> • MNG LINK LED が点灯しない • ステータスが警告状態になっている (STATUS LED がオレンジに点滅) 	<ul style="list-style-type: none"> • CLI コマンド show interface Mng • 管理インターフェイスへの ping に失敗する 	RJ-45 コネクタがプラットフォームまたはネットワークに接続されていません。	ケーブルを管理ポートおよびネットワークに接続し直します。
		ケーブルが管理ポートに接続されていません。	適切なポートにケーブルを接続し直すか、またはアクティブ ポートを設定し直します。 Interface Mng {0/1 0/2} active-port
		ケーブルが破損しています。	ケーブルを調べて、交換します。
管理リンクが起動している <ul style="list-style-type: none"> • MNG LINK LED が点灯している • 管理インターフェイスへの ping に失敗する 	CLI コマンド <ul style="list-style-type: none"> • show ip route • show ip default-gateway 	次のいずれかの設定が間違っている可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> • IP アドレス/サブネットマスク • IP デフォルト ゲートウェイ 	「管理インターフェイスの接続および初期システム設定の実行」(P.5-1) を参照してください。 『Cisco SCE 2000 and SCE 1000 Software Configuration Guide』の「Setting the IP Address and Subnet Mask of the Management Interface」を参照してください。
	CLI コマンド show access-lists	エントリを拒否する ACL が割り当てられている可能性があります。	「管理インターフェイスの接続および初期システム設定の実行」(P.5-1) を参照してください。 『Cisco SCE 2000 and SCE 1000 Software Configuration Guide』の「Configuring Access Control Lists (ACLs)」を参照してください。

表 8-6 管理サブシステムのトラブルシューティング (続き)

現象	診断アクション	考えられる原因	推奨ソリューション
<ul style="list-style-type: none"> Telnet 接続を確立できない MNG LINK LED が消灯している (リンクがダウンしている) 	<ul style="list-style-type: none"> CLI コマンド show interface mng 	管理インターフェイス IP アドレスまたはサブネットマスクが正しくありません。	管理ポートの IP アドレスおよびサブネットマスクを調べて、設定し直してください。
<ul style="list-style-type: none"> Telnet 接続を確立できない MNG LINK LED が点灯している (リンクがアップしている) 	CLI コマンド: show telnet status	Telnet サーバがディセーブルです。	service telnetd を入力して Telnet サーバをイネーブルにします。
	CLI コマンド: show telnet sessions	Telnet 接続数が多すぎます (サポートされる同時セッション数は最大 5 つ)。	開いている Telnet セッションを 1 つ以上閉じます。
	CLI コマンド: show ip default-gateway	デフォルト ゲートウェイが正しくありません (クライアントとして使用されるホストが、SCE プラットフォームと同じネットワーク内にはない場合)。	デフォルト ゲートウェイを調べて、設定し直します。「 管理インターフェイスの接続および初期システム設定の実行 」(P.5-1) を参照してください。 『 Cisco SCE 2000 and SCE 1000 Software Configuration Guide 』の「 Setting the IP Address and Subnet Mask of the Management Interface 」を参照してください。
	CLI コマンド: show ip route <host-ip-address>	ルーティング テーブルが正しく設定されていません (クライアントとして使用されるホストが SCE プラットフォームと同じネットワークになく、SCE プラットフォーム ネットワークにゲートウェイが複数存在する場合)。	ルーティング テーブルを調べて、設定し直します。「 管理インターフェイスの接続および初期システム設定の実行 」(P.5-1) を参照してください。 『 Cisco SCE 2000 and SCE 1000 Software Configuration Guide 』の「 IP Address and Subnet Mask of the Management Interface 」の設定を参照してください。
	CLI コマンド: <ul style="list-style-type: none"> show access-lists show line vty access-class show ip access-class 	ホストが有効なアクセスリストのメンバーではありません。	「 管理インターフェイスの接続および初期システム設定の実行 」(P.5-1) を参照してください。 『 Cisco SCE 2000 and SCE 1000 Software Configuration Guide 』の「 Configuring Access Control Lists (ACLs) 」を参照してください。
Telnet 接続が自動的に終了する	CLI コマンド: <ul style="list-style-type: none"> show line show line vty timeout 	Telnet 接続がタイムアウトしている可能性があります。	回線のタイムアウトを設定し直します。timeout <time in seconds>

リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング

表 8-7 を確認し、リンク インターフェイス サブシステムの問題を特定してください。

一般に、SCE 2000 からトラフィックが送信されない場合、原因はリンク問題または GBE インターフェイスの設定にあります。場合によっては、送信に関わると見なされる問題が Rx の問題であることがあります (SCE 2000 でトラフィックが受信されないか、または回線に実際にトラフィックがなく、これが通常の状態であることがあります)。



(注) ギガビット イーサネット インターフェイスの CLI コマンドの # は、インターフェイス番号を表します。この値は 1 ~ 4 です。

リンク インターフェイス サブシステムの問題は、次のいずれかが考えられます。

- リンクがダウンしている (LINK LED が消灯していて、システム ステータスが警告状態である)。
- ピアが SCE 2000 からのトラフィックを受信しない (GBE LINK LED が点灯し、Tx LED が点滅している)。
- GBE リンクが起動しているにもかかわらず、ピアからトラフィックを受信していない (GBE LINK LED は点灯しているが、Rx LED は点滅していない)。

表 8-7 リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング

現象	診断アクション	考えられる原因	推奨ソリューション
<ul style="list-style-type: none"> • リンクがダウンしている (LINK LED が点灯しない) • ステータスが警告状態になっている (STATUS LED がオレンジに点滅) • 出力カウンタが増加しない 	CLI コマンド : <ul style="list-style-type: none"> • show interface GigabitEthernet 0/# counters 	コネクタがプラットフォームまたはネットワークに接続されていません。	ケーブルを GBE ポートおよびネットワークに接続し直します。
		GBE ケーブルが破損しています。	ケーブルを GBE ポートに接続し直すか、交換します。
			GBE カウンタが増加している場合は、LED に問題があります。カスタマー サポートに連絡してください。
	CLI コマンド : show interface GigabitEthernet 0/# counters このコマンド出力内の [In good unicast packet] および [Out unicast packet] を調べます。これらのカウンタは常時、増加しているはずです。	自動ネゴシエーションが正しく設定されていない可能性があります。	SCE 2000 とピアの「 回線ポートの接続およびインストールの完了 」(P.6-1) のコンフィギュレーションを確認します。

表 8-7 リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング (続き)

現象	診断アクション	考えられる原因	推奨ソリューション
<ul style="list-style-type: none"> GBE リンクが起動している (GBE インターフェイスの LINK LED がグリーンに点灯し、Tx LED が点滅している) ピアが SCE 2000 からのトラフィックを受信しない 	<p>CLI コマンド:</p> <ul style="list-style-type: none"> show interface GigabitEthernet 0/# counters <p>このコマンド出力内の [Out unicast packet] を調べます。これらのカウンタは常時、増加しているはずです。</p> <p>show interface GigabitEthernet 0/#</p>	自動ネゴシエーションは SCE 2000 でディセーブルになっていますが、ピアではイネーブルになっています。	SCE 2000 とピアのコンフィギュレーションを確認します。
<ul style="list-style-type: none"> GBE リンクが起動している (GBE インターフェイスの LINK LED がグリーンに点灯) トラフィックを受信されない (GBE インターフェイスの Rx LED が点滅しない) 		ピアから SCE 2000 にトラフィックが送信されていません。	ピアのトラフィック接続を調べます。
		自動ネゴシエーションは SCE 2000 でディセーブルになっていますが、ピアではイネーブルになっています。	SCE 2000 とピアのコンフィギュレーションを確認します。

ユーザ ログによるトラブルシューティング

ユーザ ログは、任意のエディタで表示可能な ASCII ファイルです。起動、シャットダウン、エラーなど、システム イベントのレコードが格納されます。ユーザ ログを表示するには、ロガーを使用します。表示されたユーザ ログは、システムが正常に機能しているかどうかの判別や、テクニカル サポートに役立ちます。

- 「ロギング システム」(P.8-12)
- 「テクニカル サポート用ファイルの生成」(P.8-15)

ロギング システム

イベントは 2 つのログ ファイルの 1 つに記録されます。ファイルが最大容量に達すると、そのファイルに記録されていたイベントは、一時的にアーカイブされます。その後、新しいイベントは代替ログ ファイルに自動的に記録されます。2 番目のログ ファイルが最大容量に達すると、ロギング イベントは最初のログ ファイルに戻され、ファイル内に保存されていた一時的なアーカイブ情報が上書きされます。

基本操作は次のとおりです。

- 外部ソースへのユーザ ログのコピー
- ユーザ ログの表示

- ユーザ ログの消去
- ユーザ ログ カウンタの表示と消去

外部ソースへのユーザ ログのコピー方法

ログ ファイルは、外部ソースにコピーすることで表示できます。このコマンドを実行すると、両方のログ ファイルが FTP サーバが動作する外部ホストにコピーされます。

-
- ステップ 1** SCE 2000# プロンプトで、**logger get user-log file-name ftp://username:password@ipaddress/path** を入力して、Enter キーを押します。
-

内部ロケーションへのユーザ ログのコピー方法

ログ ファイルは、ディスクにコピーすることで表示できます。このコマンドを実行すると、両方のログ ファイルがローカルの SCE プラットフォーム ディスクにコピーされます。

-
- ステップ 1** SCE 2000# プロンプトで、**logger get user-log file-name target-filename** を入力して、Enter キーを押します。
-

ユーザ ログの表示方法



- (注) ユーザ ログが大容量の場合は、このコマンドの使用は推奨しません。大容量のログ ファイルを表示するには、そのログ ファイルをファイルにコピーします（「外部ソースへのユーザ ログのコピー方法」(P.8-13) を参照）。
-

- ステップ 1** SCE 2000# プロンプトで、**more user-log** を入力して、Enter キーを押します。
ユーザ ログが表示されます。
-

ユーザ ログの消去方法

ユーザ ログの内容は、いつでも消去できます。ユーザ ログには、システムの機能に関する重大な情報が含まれています。ログを消去する前に、コピーを作成することを推奨します。

-
- ステップ 1** SCE 2000# プロンプトに、**clear logger device user-file-log** を入力して、Enter キーを押します。
- ステップ 2** Are you sure? という確認メッセージが表示されます。
- ステップ 3** **y** を入力して、Enter キーを押します。
SCE 2000# プロンプトが表示されます。
-

ユーザ ログ カウンタの表示方法

ログ カウンタには次の 2 種類があります。

- ユーザ ログ カウンタ：SCE プラットフォームの前のレポート以降に記録されたシステム イベント数をカウントします。
- 不揮発性カウンタ：起動時に消去されません。

ステップ 1 SCE 2000# プロンプトに、**show logger device user-file-log counters** を入力して、Enter キーを押します。

ログ行の情報に続いて SCE 2000# プロンプトが表示されます。

ユーザ ログ ファイルとデバッグ ログ ファイル両方に対する不揮発性ロガー カウンタの表示方法

ステップ 1 SCE 2000# プロンプトで、**show logger nv-counters** を入力して、Enter キーを押します。

不揮発性ログ カウンタ情報に続いて SCE 2000# プロンプトが表示されます。

user-file-log の不揮発性カウンタだけの表示方法

ステップ 1 SCE 2000# プロンプトに、**show logger device user-file-log nv-counters** を入力して、Enter キーを押します。

user-file-log の不揮発性ログ カウンタ情報に続いて SCE 2000# プロンプトが表示されます。

テクニカル サポート用ファイルの生成

効果的なテクニカル サポートが受けられるようにするには、システム ログに含まれる情報を提供する必要があります。シスコ テクニカル サポート スタッフが使用するサポート ファイルを生成するには、**logger get support-file** コマンドを使用します。

-
- ステップ 1** SCE 2000# プロンプトに、**logger get support-file filename** を入力して、Enter キーを押します。
- 指定されたファイル名を持つサポート情報ファイルが作成され、SCE 2000# プロンプトが表示されます。この処理には少し時間がかかる場合があります。
-

